

## Explanation of Plates X—XI

- Pl. X. A. *Sphenomeris chusana*, B. *Sphenomeris biflora*, C. *Microlepia speluncae*, D. *Microlepia strigosa*, E. *Pteris boninensis*, F. *Pteridium aquilinum* var. *latiusculum*, G. *Histiopteris incisa*, H. *Lindsaea repanda*, I. *Abrodictyum boninense*, J. *Vandenboschia radicans* var. *orientalis*, K. *Crepidomanes acuto-obtusum*.
- Pl. XI. A. *Bolbitis boninensis*, B. *Lunathyrium bonincola*, C. *Ctenitis lepiger*, D. *Cyrtomium falcatum*, E. *Thelypteris ogasawarenensis*, F. *Loxogramme boninensis*, G. *Microsorium fortunei*, H. *Lepisorus boninensis*, I. *Schizaea boninensis*.

\* \* \* \*

小笠原産のシダ植物 23 種の染色体数について報告した。これらのうち 7 種だけが倍数体でしかもその大部分は 4 倍体であった。シダ植物では温帯地域に比較して熱帯地域でのシダフロア内の倍数体の割合は高くしかも倍数性の程度も 6 倍体や 8 倍体等のように高くなる傾向にあることが報告されている。マントンはこの原因として熱帯地域の環境がシダ植物の生長に適していることをあげている。しかし今回の調査では小笠原のシダフロア内の倍数体の割合は低く、倍数性の程度も 4 倍体と低く他の熱帯地域とは異なっているようである。小笠原の環境は倍数体を誘引するよりもむしろ 2 倍体種の存続を保つ傾向にあるように思われる。このことはオニヤブソテツとユノミネシダで今回新たに 2 倍体種が発見されたことにより裏付けされるように思われる。

□Tang-Shui Liu (劉 崇瑞): **A monograph of the genus *Abies***. 608 pp., 66 pls., 42 maps. Dec. 1971. Department of Forestry, National Taiwan University. US \$ 25.00. *Abies* (モミ属) の世界的モノグラフで、著者が欧米日本の主要研究所で標本を自ら検討し、又できるだけ生品を観察してまとめた労作である。本属の分類にこれまで用いられてきた性質の外に、果柄の長さ、果軸の形態、実片の厚さ、葉の解剖学的諸性質、花粉の大きさなども重要であることを指摘している。その結果モミ属を 2 亜属 15 節 39 種 27 変種と 9 雑種に分類し、検索表と各種について詳しい文献の引用、記載、図(葉の断面も)、分布図がつけられている。日本産としてはモミ、ウラジロモミ、シラビソ(変種シコクシラベ)、トドマツ(変種アオトドマツ)、オオシラビソが認められ、ミツミネモミはモミとオオシラビソの雑種と見なされている。著者が最も苦心したのは地中海・中米地域産の種の分類であり、地理分布、他属との関連や節相互の系統関係についての見解も示されている。その他化石種や利用に至るまでモミ属に関する多くの資料が集められているので今後の研究に役立つ文献である。

(原 寛)